

シラバス参照

科目名/Subject	日本経済
担当教員/Instructor	川端 望
曜日・講時/Day/Period	前期 火曜日 2講時 前期 金曜日 3講時
対象学年 /Eligible Participants	3・4
科目ナンバリング /Course Numbering	EAL-ECO315J
単位数/Credit(s)	4

授業の目的 と概要 /Object and summary of class	現代日本社会を生きるための、また社会各分野で専門的知識に基づき日本経済のありかたを論じるリーダーとなるための基本的教養としての日本経済論を学ぶ。 1990年代以後の日本経済を特徴づける低成長の構造を、マクロ経済、産業システム、雇用システムの三つの角度から解説する。そして、世界経済の再編と人口減少・高齢化に対応してどのような構造変化が生じているのか、この先にどのような未来が待ち受けているのか、どのような選択肢があり得るのかを論じる。																																										
学習の 到達目標 /Goal of study	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の置かれている状況を、世界経済の文脈、および戦後経済史の文脈において把握できるようにする。 ・日本経済をマクロ的に把握する方法を学ぶとともに、アベノミクスを含むマクロ経済政策を評価できる経済学的視点を身に着ける。 ・日本の産業システムおよび雇用システムの特徴と変化を学ぶことで、日本経済の低成長構造を社会科学的に理解する。 ・日本経済の将来を展望し、そこにある選択肢について経済学的に判断する能力を身に着ける。 																																										
授業内容・ 方法と 進度予定 /Contents and progress schedule of the class	<p>I ガイダンス(1)</p> <p>II 世界経済の潮流と現代日本経済(2)</p> <p>1 グローバルに見た所得の動態</p> <p>2 先進諸国における格差の動向</p> <p>3 先進諸国における長期停滞</p> <p>4 本講義の視点と課題</p> <p>III 戦後の日本経済の歩み(3)</p> <p>1 戦後経済成長の長期趨勢</p> <p>2 戦後経済成長の歴史的前提</p> <p>3 日本経済の高成長期</p> <p>4 低成長期としての現在</p> <p>5 小括</p> <p>IV 低成長の構造とマクロ経済政策(6)</p> <p>1 現代資本主義におけるマクロ経済政策</p> <p>2 アベノミクスの検証</p> <p>3 小括</p> <p>V 日本産業の投資行動(8)</p> <p>1 冷戦終結・新興国台頭とICTの発展がもたらしたもの</p> <p>2 鉄鋼業ー巨大企業の投資行動</p> <p>3 自動車部品ーサプライヤー・システムの変容</p> <p>VI 雇用システムの変容(7)</p> <p>1 正社員のメンバーシップ型雇用</p> <p>2 雇用構造の変動</p> <p>3 「働き方改革」の模索と混迷</p> <p>4 小括</p> <p>VII おわりに(1)</p> <p>残り回数: 予備</p> <p>括弧内は予定回数を表す。</p>																																										
使用言語 /Language Used in Course	日本語。																																										
成績 評価方法 /Evaluation method	<ul style="list-style-type: none"> * 期末テスト・小テスト・授業中の発言で評価する。 * 配点 * 期末試験: 80点 * 小テスト: 20点 * 100点満点の枠外で、発言1回につき最大3点加点する。 																																										
教科書 および 参考書 /Textbook and references	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書名</th> <th>著者名</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN/ISSN</th> <th>資料種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>『大不平等』</td> <td>ブランコ・ミラウイッチ</td> <td>みすず書房</td> <td>2017</td> <td>9784622086130</td> <td>参考書</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>『日本経済読本(第20版)』</td> <td>金森久雄・大守隆編</td> <td>東洋経済新報社</td> <td>2016</td> <td>9784492100325</td> <td>参考書</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>『日本経済論講義』</td> <td>小峰隆夫</td> <td>日経BP社</td> <td>2017</td> <td>9784582858631</td> <td>参考書</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>『最新日本経済入門[第5版]』</td> <td>小峰隆夫</td> <td>日本評論社</td> <td>2016</td> <td>9784535558069</td> <td>参考書</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>『21世紀の長期停滞論』</td> <td>福田慎一</td> <td>平凡社</td> <td>2018</td> <td>9784582858631</td> <td>参考書</td> </tr> </tbody> </table>	No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別	1.	『大不平等』	ブランコ・ミラウイッチ	みすず書房	2017	9784622086130	参考書	2.	『日本経済読本(第20版)』	金森久雄・大守隆編	東洋経済新報社	2016	9784492100325	参考書	3.	『日本経済論講義』	小峰隆夫	日経BP社	2017	9784582858631	参考書	4.	『最新日本経済入門[第5版]』	小峰隆夫	日本評論社	2016	9784535558069	参考書	5.	『21世紀の長期停滞論』	福田慎一	平凡社	2018	9784582858631	参考書
No	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別																																					
1.	『大不平等』	ブランコ・ミラウイッチ	みすず書房	2017	9784622086130	参考書																																					
2.	『日本経済読本(第20版)』	金森久雄・大守隆編	東洋経済新報社	2016	9784492100325	参考書																																					
3.	『日本経済論講義』	小峰隆夫	日経BP社	2017	9784582858631	参考書																																					
4.	『最新日本経済入門[第5版]』	小峰隆夫	日本評論社	2016	9784535558069	参考書																																					
5.	『21世紀の長期停滞論』	福田慎一	平凡社	2018	9784582858631	参考書																																					

6. 『アベノミクスによろしく』	明石順平	集英社インターナショナル	2017	9784797680140	参考書
7. 『偽りの経済政策』	服部茂幸	岩波書店	2017	9784004316619	参考書
8. 『この経済政策が民主主義を救う』	松尾匡	大月書店	2016	9784272140626	参考書
9. 『未来の年表』	河合雅司	講談社	2017	9784062884310	参考書
10. 『日本は『格差社会』になったのか』	森口千晶	一橋大学経済研究所	2017		参考書

関連URL /URL [川端望の研究ノート集
http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/arekore.htm](http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/arekore.htm)

授業時間外学習 /Preparation and Review
 ・小テストは基本事項を振り返る問題であるため、各回の内容をよく復習すること。
 ・「教科書・参考書」の欄には、日本経済全体についての入門的な書物が列挙してある。授業はわかりやすく話すつもりであるが、受講者は東北大学に合格し、入門科目を履修してきた学生として、基本的な経済学概念、用語、日本社会での出来事の概要についてある程度知っていなければならない。I - IV章を聞いていて基本的な用語、出来事などが分からないと感じた場合、これらの書物を読むこと。

添付ファイル /Attached File

その他 /In addition
 教科書は用いない。前項で述べたように、「教科書・参考書」欄に記したのは、日本経済全体についての入門的な参考書であり、とくにII, III, IV章の理解に役立つものである。より立ち入った論点に関わる文献、および産業と雇用をめぐる各論についての文献は、講義資料で提示する。

更新日付 /Last Update
 2019/02/27 11:55